



# FUTURE-READY BUSINESS: AIによるビジネスの可能性 について



PSI



# 調査概要



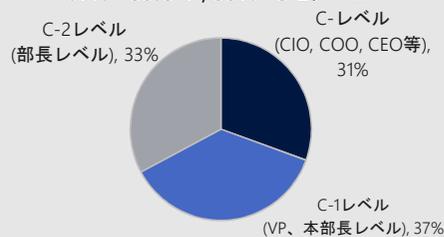
ビジネス  
リーダー  
(BDMs)

国内回答者数

150 BDMS

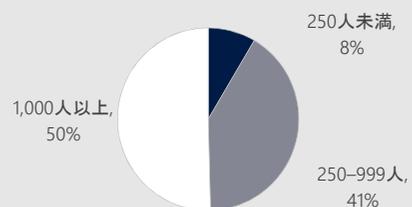
## 回答者プロフィール

67%=C&C-1 ; 33%=C-2レベル



## 企業規模別プロフィール

50%=SMB, 50%=大企業



## 産業分野別プロフィール

- |     |         |
|-----|---------|
| 農業  | ヘルスケア   |
| 自動車 | 製造      |
| 教育  | 流通      |
| 金融  | サービス    |
| 官公庁 | 通信/メディア |



従業員

国内対象者数

152 Workers

## 回答者の社内での役割

- |            |              |
|------------|--------------|
| 管理/オペレーション | メカニック/テクニシャン |
| 顧客関係       | 製造           |
| 経理財務       | 研究開発         |
| IT従事       | 職場管理         |

調査対象  
市場





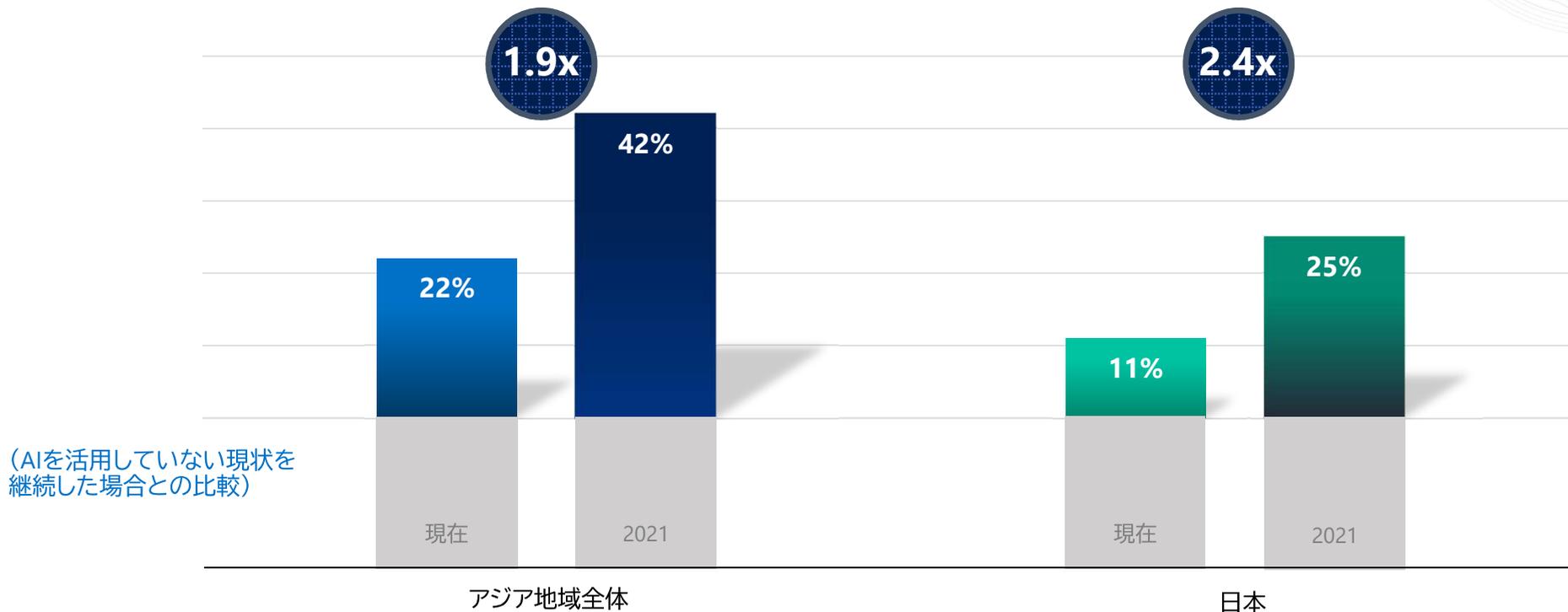
# AIの機会と可能性



# AIへの期待値： イノベーション推進は3年後に2倍以上に



AIの導入により、現在および3年後に創造される新たな革新的な製品およびサービスの割合

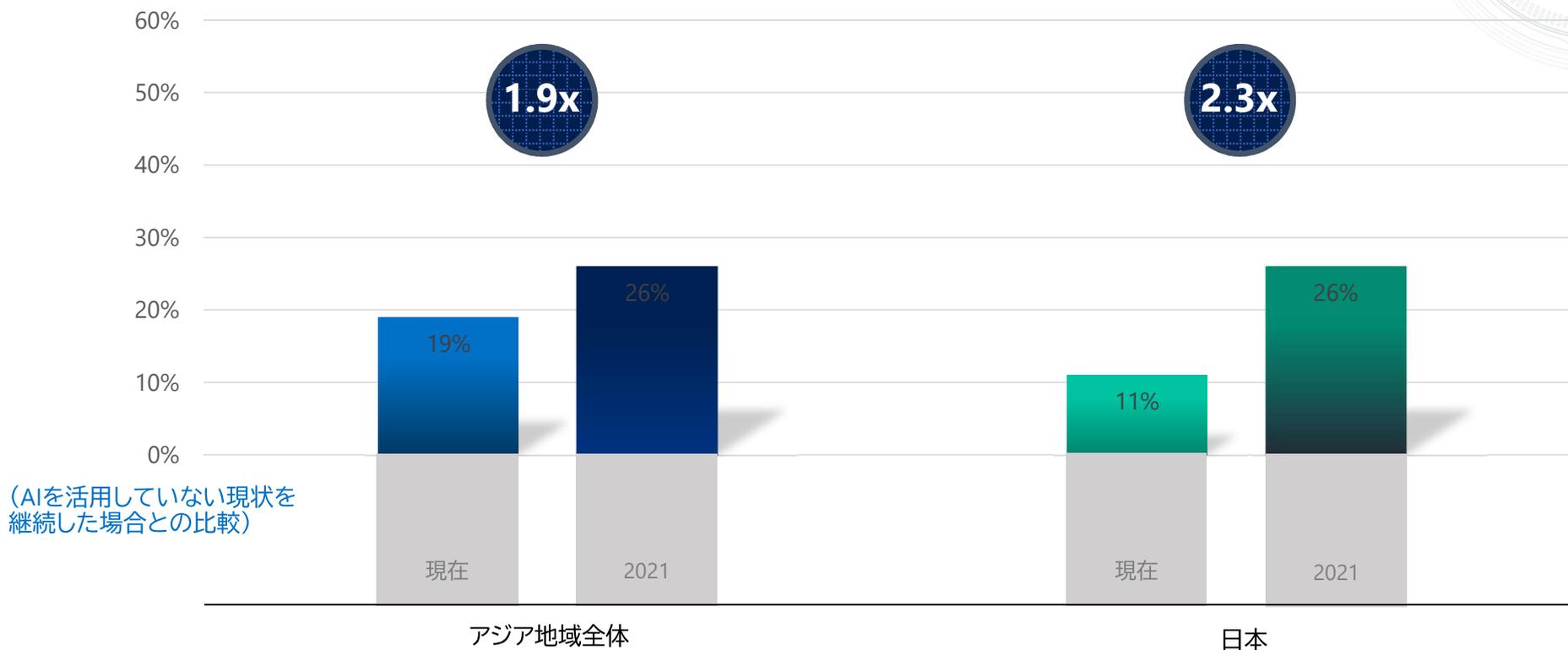


Q: AIの導入により、現在および3年後にあなたの組織で創造される新たな革新的な製品およびサービスの割合はどの程度ですか？  
アジア地域全体(BDM) n = 1,605      日本(BDM) n = 150

# AIへの期待値： 生産性向上は3年後に2倍以上に



AIの導入により、現在および3年後に達成が期待される従業員生産性の向上割合



Q: AI関連ソリューションを採用するための組織の主な推進力は何ですか？

Q: 上位3つの分野について、現在の改善レベルと3年後の予想される改善レベル(増加)を回答してください。

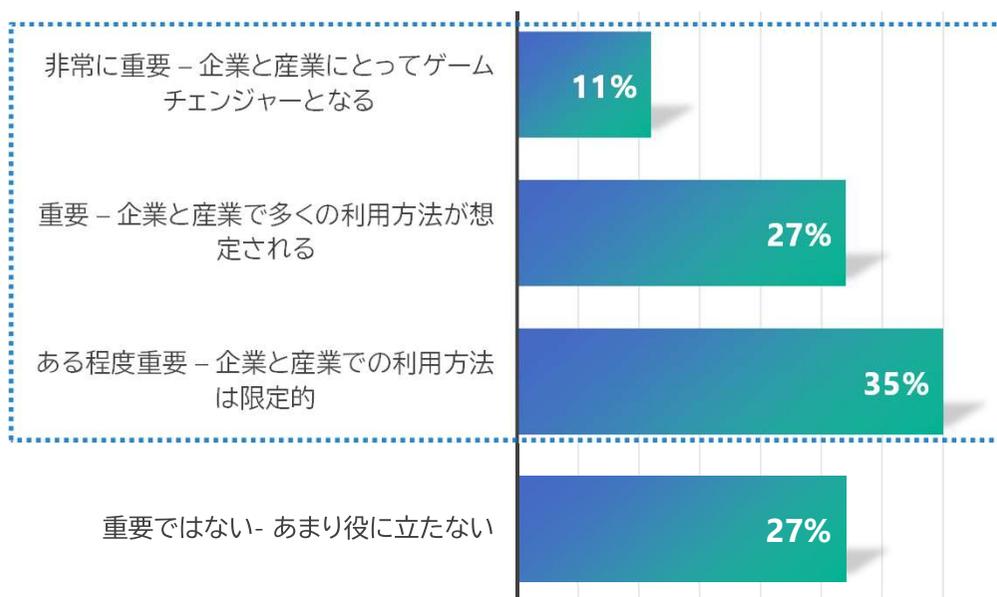
アジア地域全体(BDM) n = 1,605

日本(BDM) n = 150

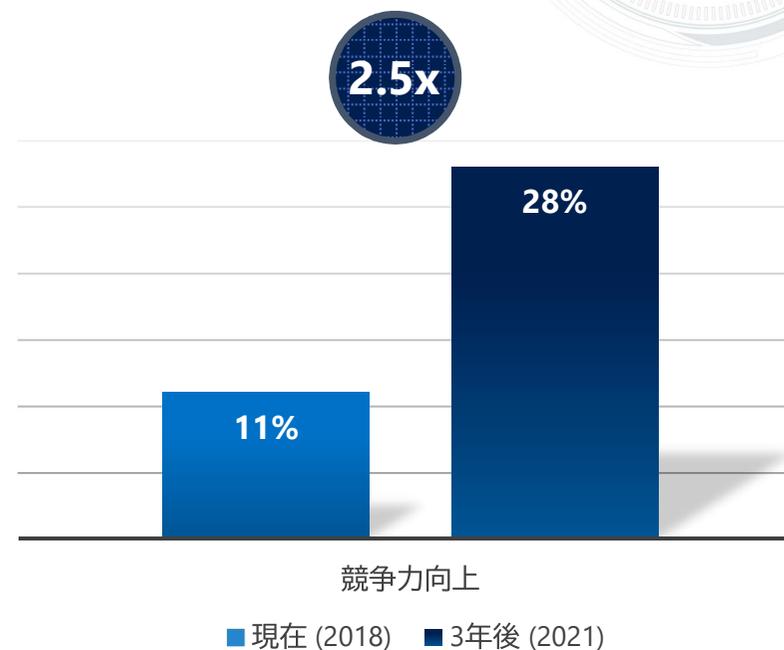
# AIは企業競争力のドライバーとなる

- 73%の回答者が、AIは今後3年間で企業の競争力を高めるのに役立つと回答

3年後の企業の競争力に対するAIの重要性



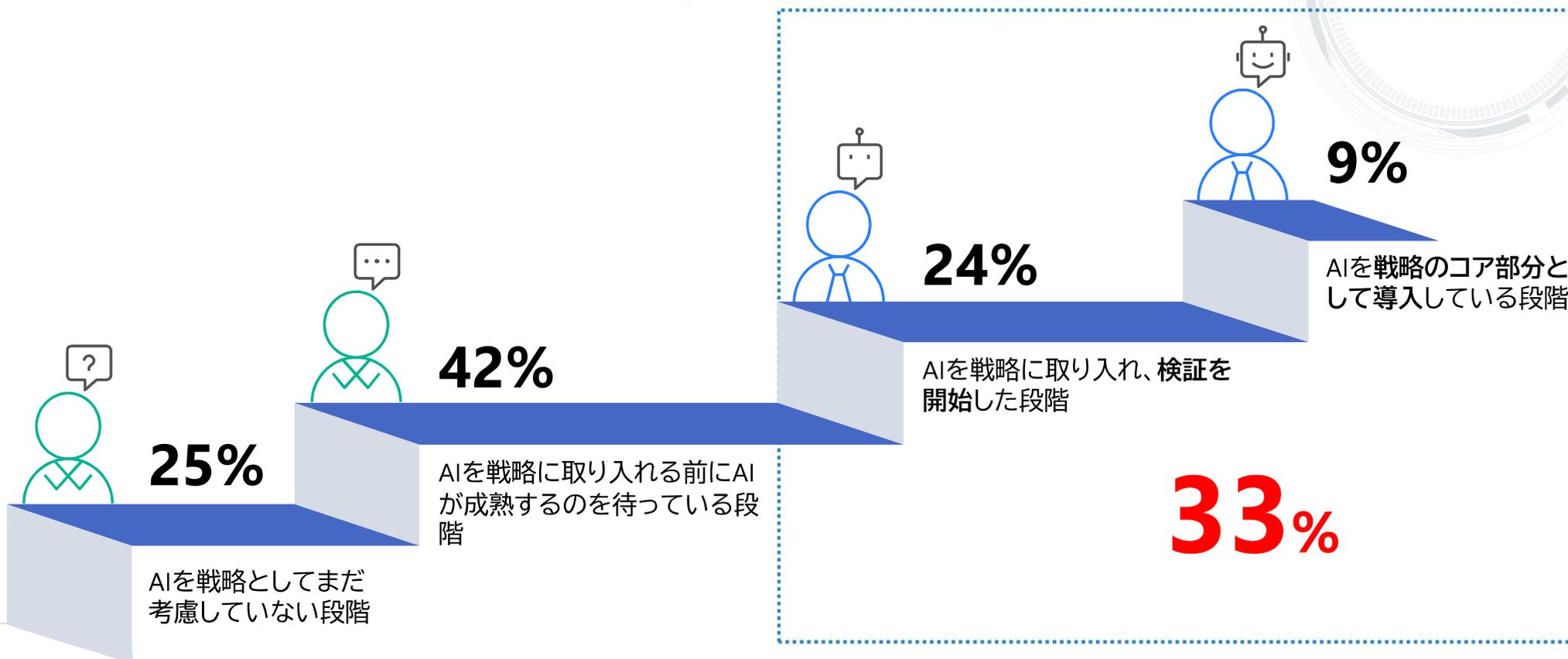
- AIを導入している日本企業は、3年間で2.5倍の競争力の向上を期待していると回答





# AI導入のドライバー

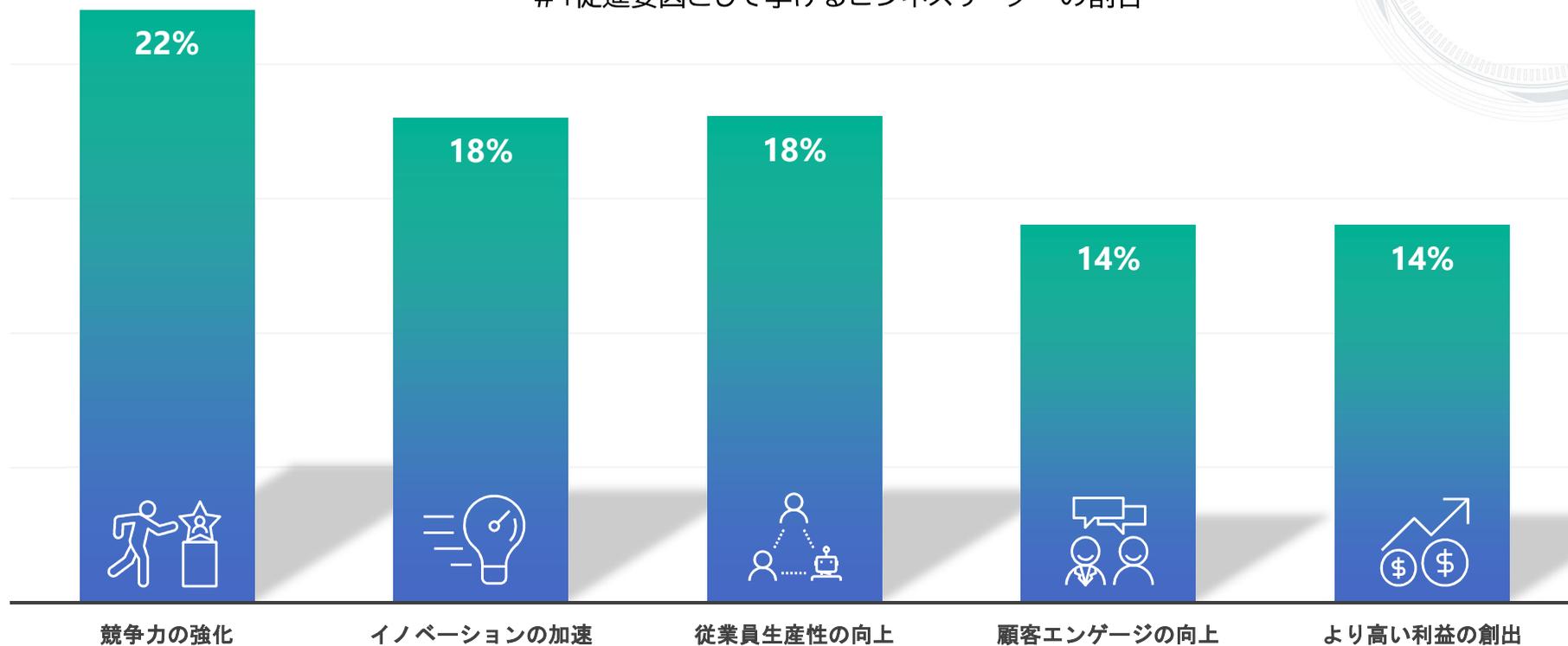
# AIの活用を開始している日本企業は3分の1程度



# AI導入の5大促進要因



#1促進要因として挙げるビジネスリーダーの割合



Q: あなたの会社で、AI関連ソリューションを採用するための主な推進力/動機は何ですか？ また、あなたの会社がAI関連のソリューションを導入していない場合、あなたの会社がAI関連のソリューションを採用するのに影響を与える主な要因となるものは何ですか？  
日本(BDM、AI導入企業)n = 49

# AI活用によるビジネス改善効果の期待： 3年後には2倍以上に



2.1x



2.4x



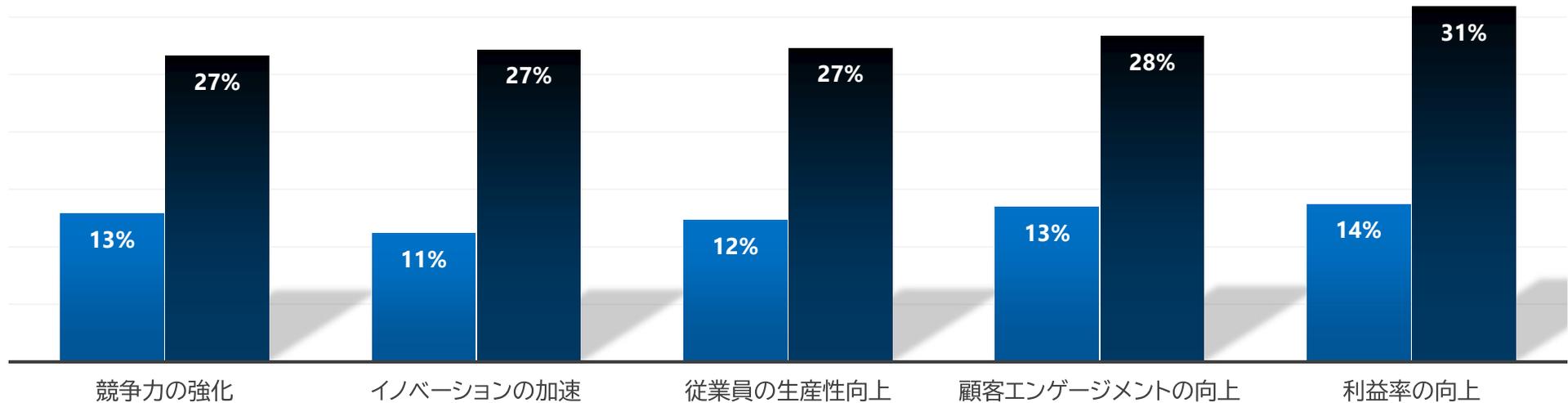
2.2x



2.1x



2.3x



■ 現在 ■ 3年後

Q:あなたの会社で、AI関連ソリューションを採用するための主な推進力/動機は何ですか？ また、あなたの会社がAI関連のソリューションを導入していない場合、あなたの会社がAI関連のソリューションを採用するのに影響を与える主な要因となるものは何ですか？  
日本(BDM、AI導入企業)n = 49



# アジア地域および日本におけるAI対応の評価

# AI対応の評価モデル



## Strategy: 戦略



AIがコア戦略であるか、自動化の役割、競争上の差別化要因としてどのように見なしているかの評価

## Data: データ

101010  
010101  
101010

データの品質、適時性、ガバナンスなど、データの可用性の評価

## Investments: 投資



AIへの投資、および投資からのROIの評価

## Culture: 文化



従業員がリスク、イニシアチブ、意思決定を自律的に行う権限を与えられている範囲の評価

## Infrastructure: 基盤



AIをサポートするためのデータインフラストラクチャ、ツール、およびシステムの可用性の評価

## Capabilities: 能力

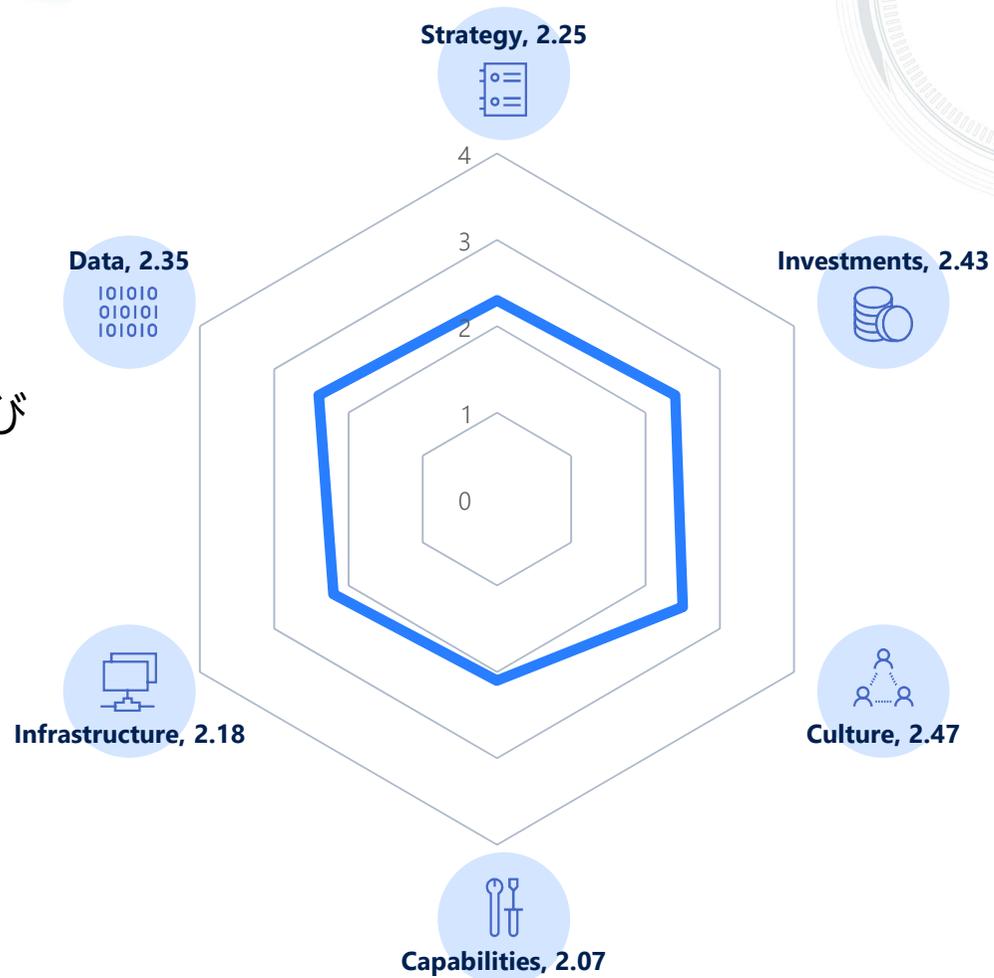


AIモデルを開発、展開、および運用するための組織の機能の評価

# アジア地域のAI対応評価



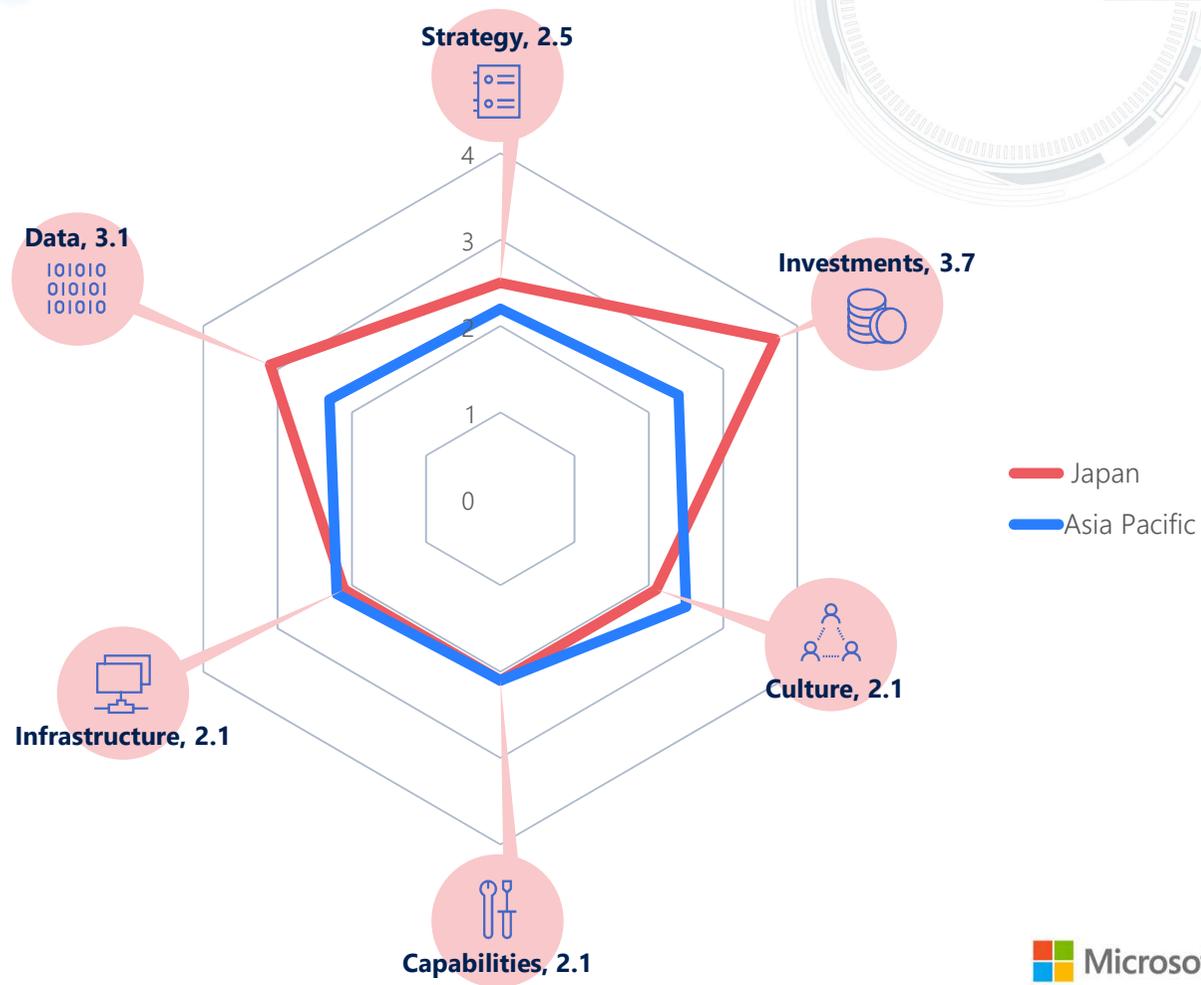
アジア地域は、AIの戦略、機能、および  
インフラストラクチャの改善に焦点を  
当てる必要がある



# AI対応の評価：アジア地域と日本の比較



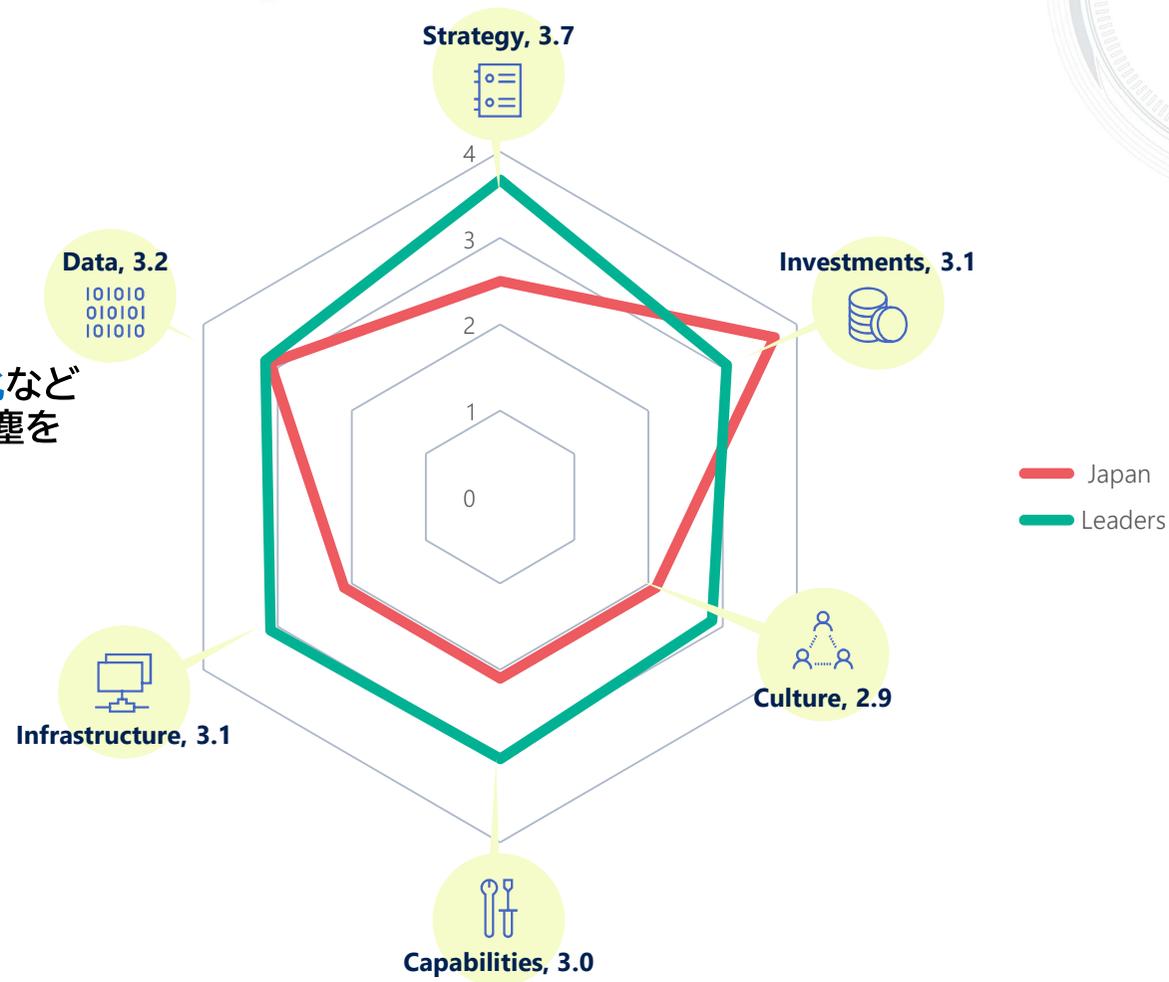
日本は、投資、戦略、データへの対応という点ではアジア地域より高いスコアになったが、文化は遅れている



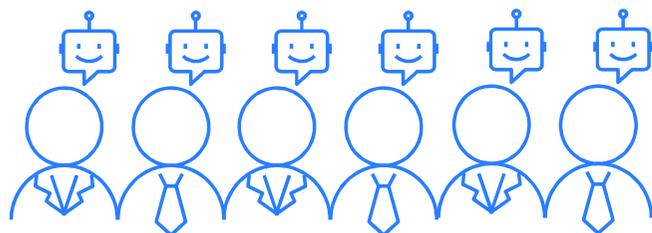
# AI対応の評価：日本とアジア地域のリーダーとの比較



反面、日本は**戦略、能力、インフラ、文化**などの分野でアジア地域のAIリーダーの後塵を拝している

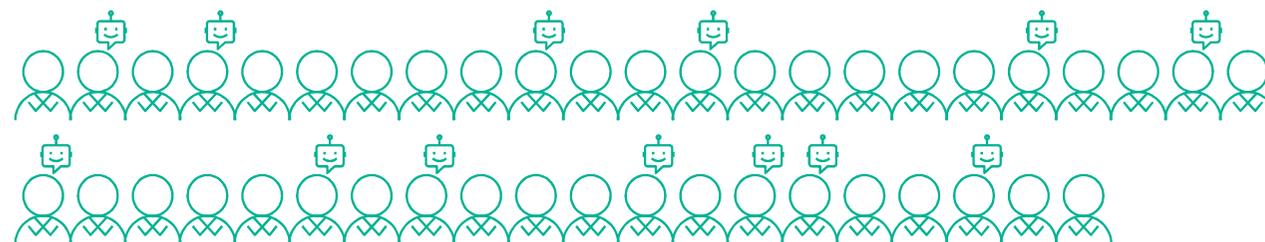


# AIリーダーとは誰か



**6%**  
リーダー

- コア戦略にAIを組み入れるか、またはAIで実証を始めた企業
- AIのメリットを活用して高度な改善を実施した企業



**94%**  
フォロワー

- AIの検証を始めた、またはまだ始めていない企業
- AIのメリットは中程度の改善に終始、または改善なし

Q: 次のうちどれがあなたの会社のAIに対する見解を最もよく表していますか?

Q: あなたの会社のAI展開やAIソリューション利用の結果として、現在の改善のレベルを示してください。

フォロワー n = 1,514

リーダー n = 91

# AIリーダーとフォロワーの差異



企業全体のAI戦略を推進するために  
毎年投資を増加している



5.4x

特別な役割を持つ組織でAIモデルと複雑な分析の  
開発/検証を一元管理している



4.8x

ロボティクプロセスオートメーション(RPA)、  
自然言語処理などのAI分析とツールを持っている



3.7x

社内に開発者、スペシャリスト、およびデータエンジニアを持ち、  
AIアプリケーションの展開/運用を行っている



3.6x

IT部門とビジネス部門およびコンプライアンス部門が  
共同で、継続的な企業データガバナンスの習慣を維持している

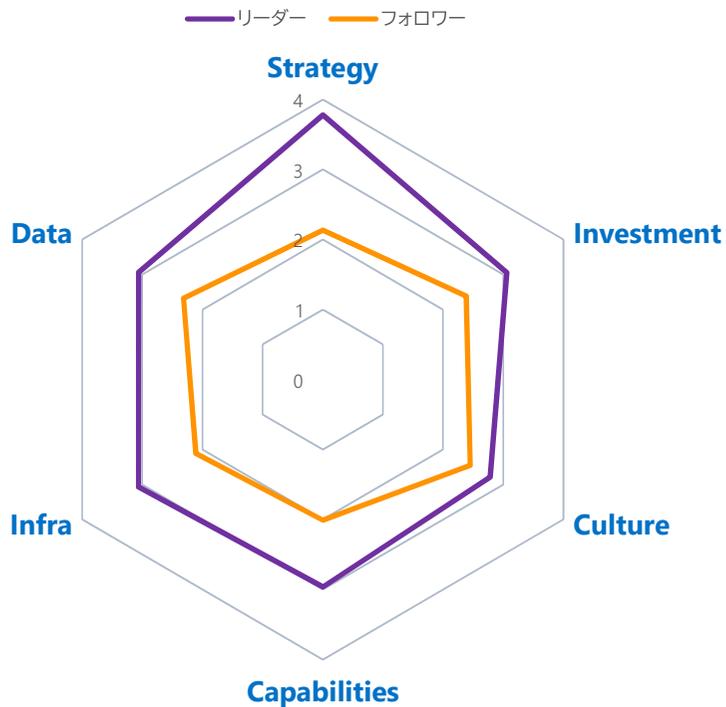


3.4x

# AIリーダーとフォロワーの格差

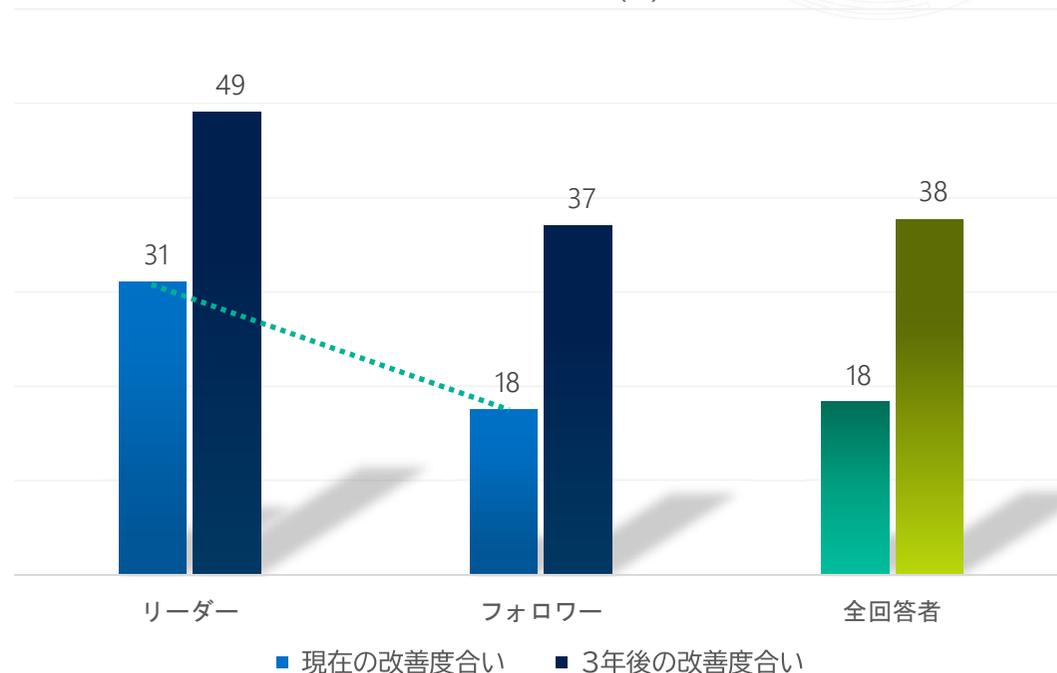


リーダーはすべての評価軸で優位性を持っており、特に戦略、インフラストラクチャーおよび能力において大きな優位性を持っている



現時点で、リーダーはAIを採用することのメリットをフォロワーの1.8倍と見ている

AIからのメリット享受 (%)

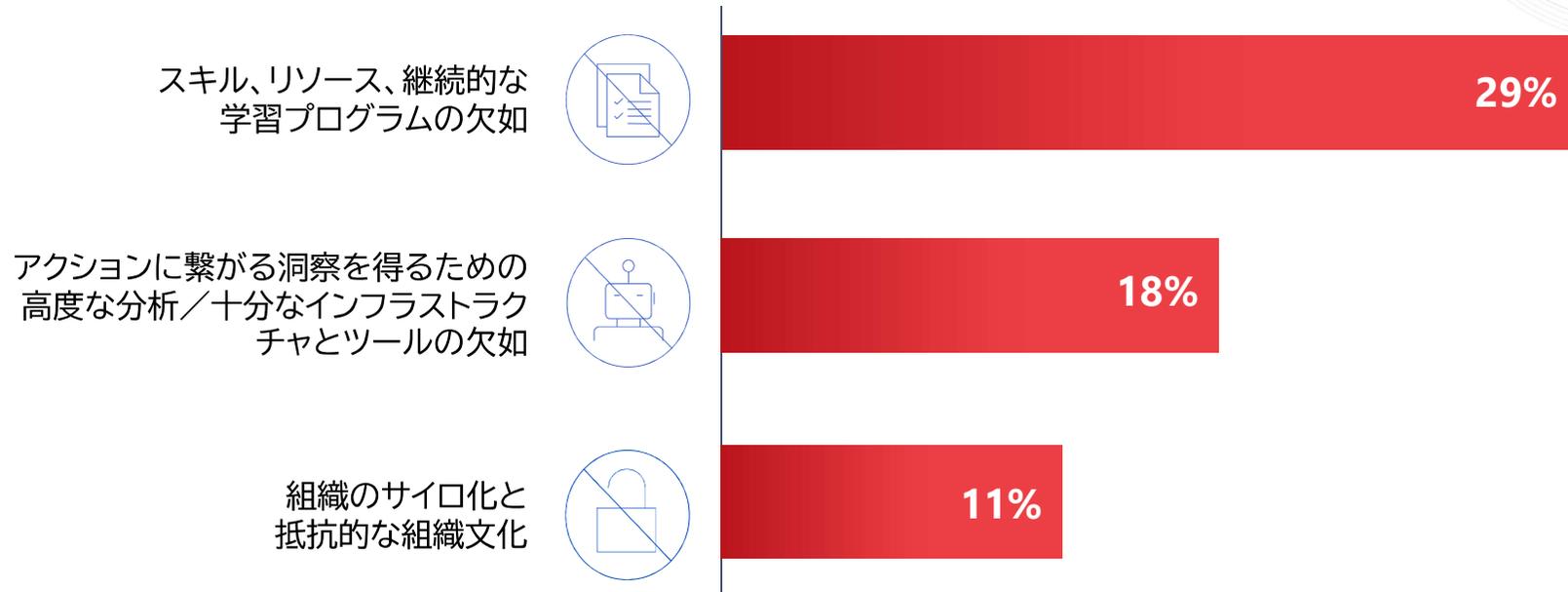


Q: AI関連のソリューションを採用するためのあなたの組織の主な推進力は何ですか？ 上記の上位3つの分野について、今日見られる改善のレベルと3年間の予想される増加を記入してください  
 フォロワー n = 1,514      リーダー n = 91

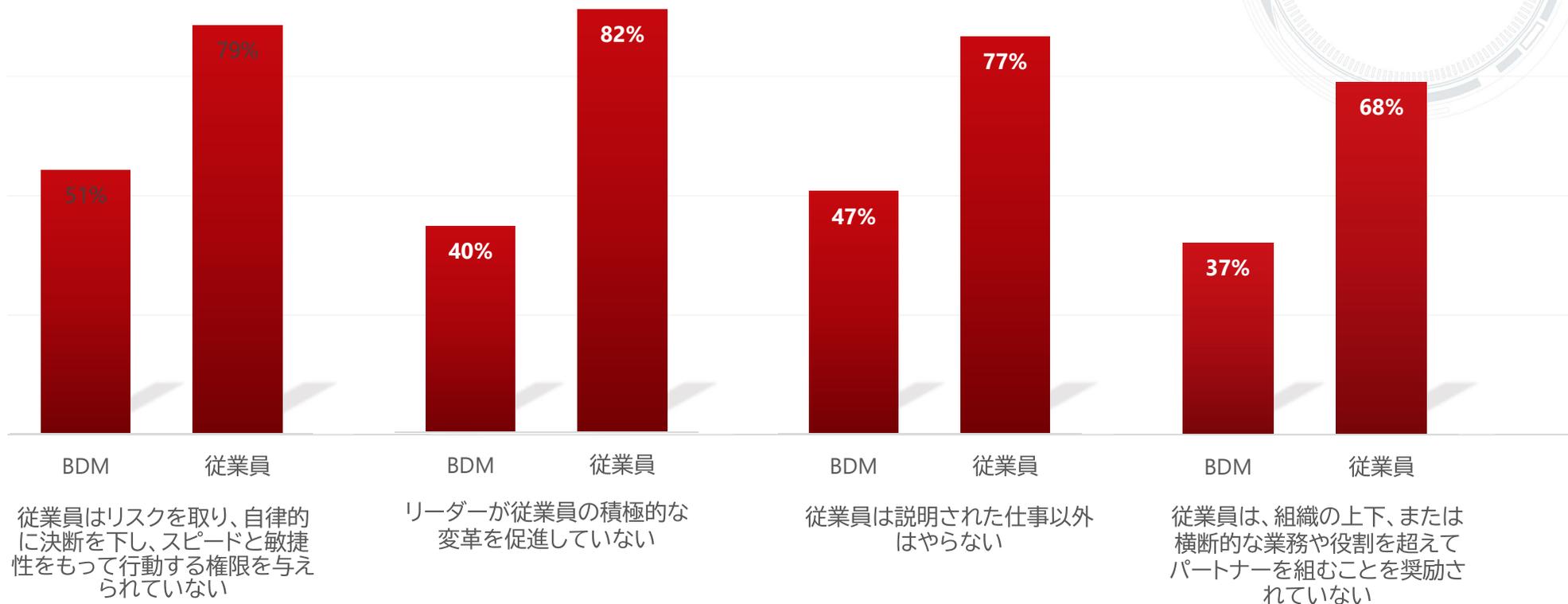


# 阻害要因の理解

# 日本の組織が直面するAI導入の課題： スキル、ツール、文化



# AI導入に必要な文化的特徴の不足



従業員はリスクを取り、自律的に決断を下し、スピードと敏捷性をもって行動する権限を与えられていない

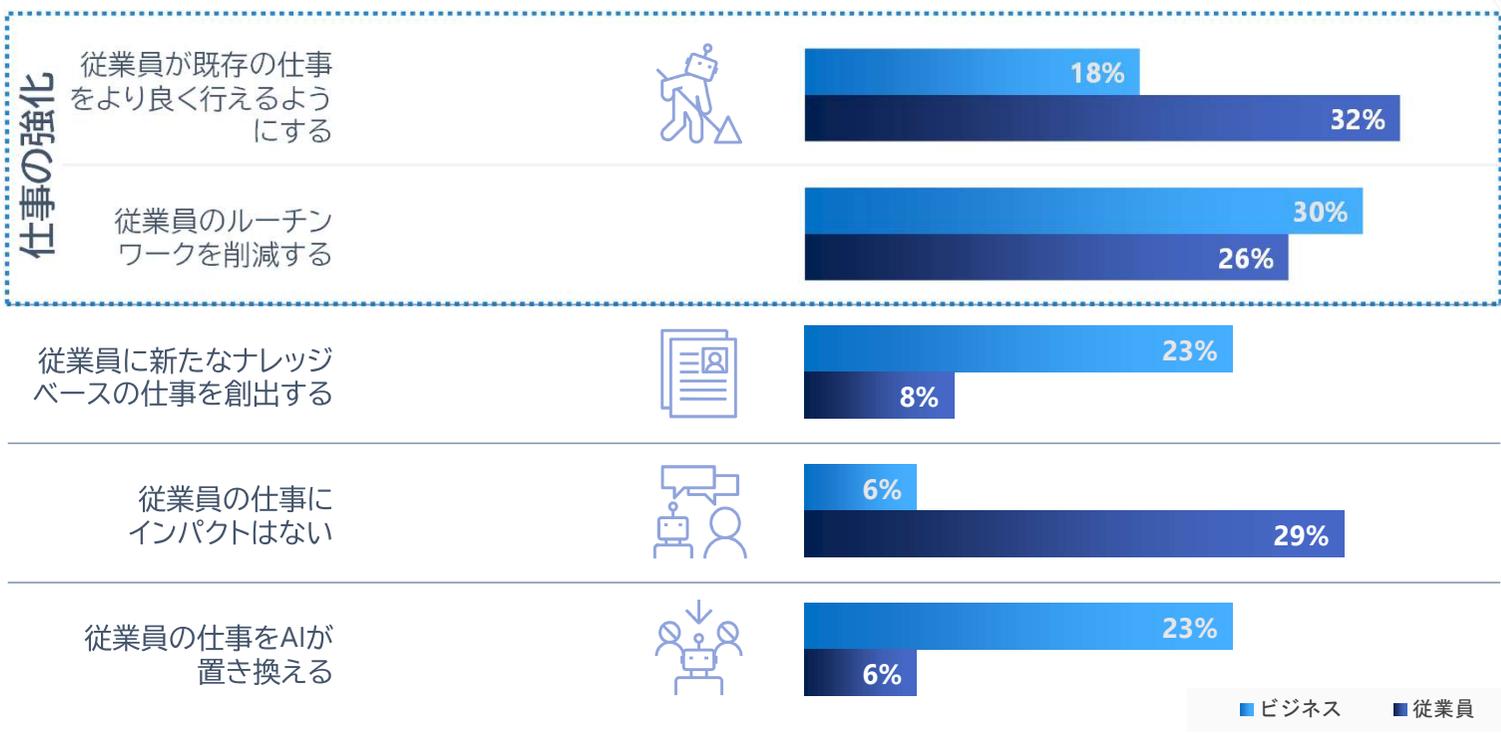
リーダーが従業員の積極的な変革を促進していない

従業員は説明された仕事以外はやらない

従業員は、組織の上下、または横断的な業務や役割を超えてパートナーを組むことを奨励されていない

Q: 次のうちどれがあなたの会社の文化と敏捷性を最もよく表していますか? (1から4のスケールでの選択。1=会社内で特徴がまったく見られない、4=会社全体に特徴が広まっている)  
日本(BDM)n = 150  
日本(従業員)n = 152

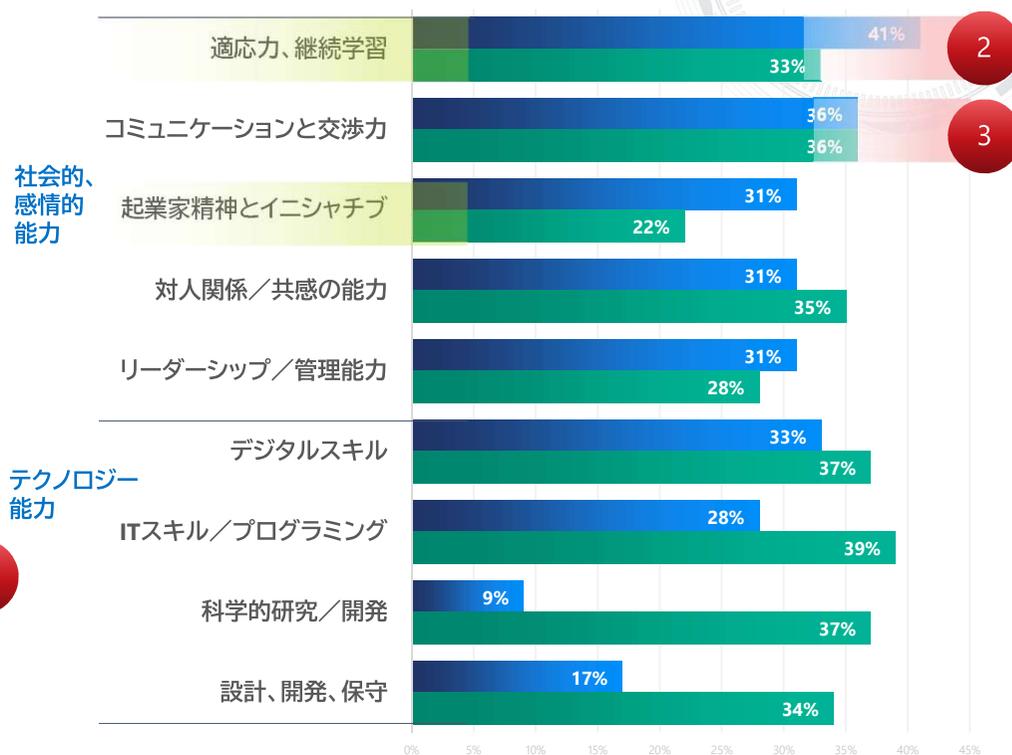
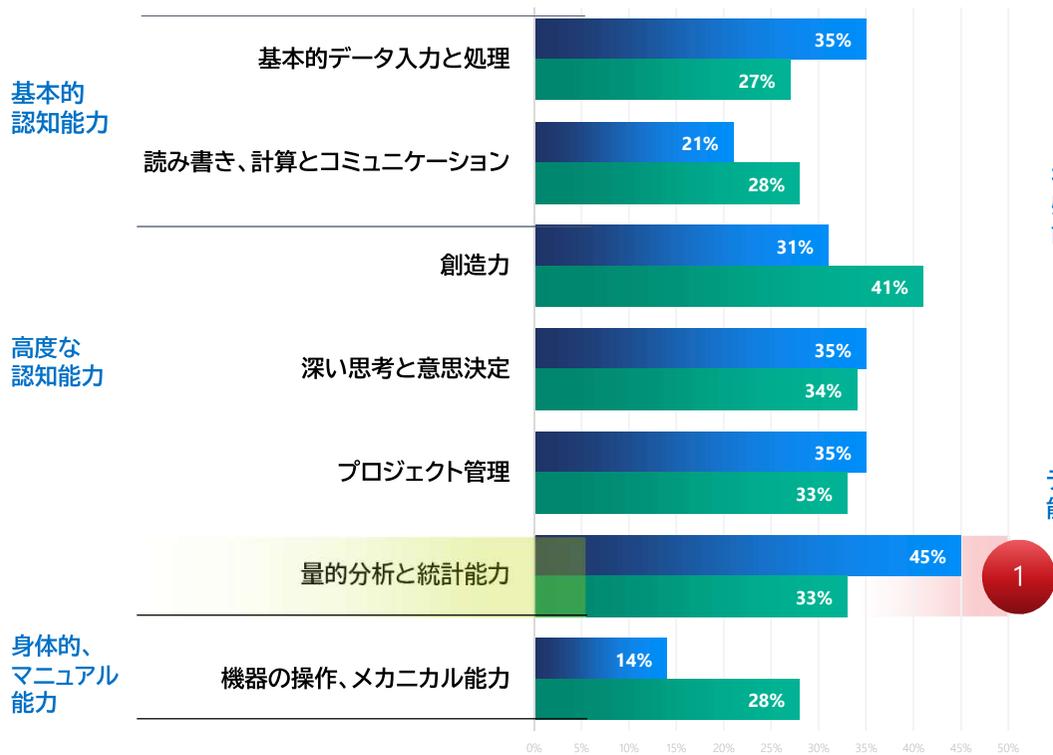
# AIによる仕事に対する理解： 企業幹部と従業員の意識差



# AI活用のためのスキルとチャレンジ



WIP



■ ビジネスリーダーのスキル ■ 従業員のスキル

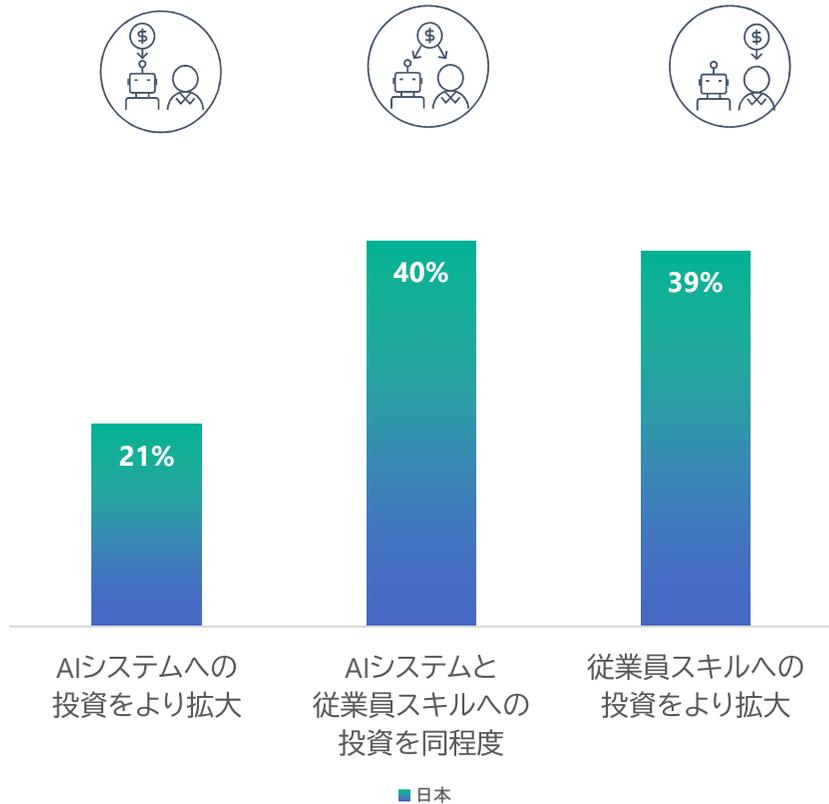
スキルのギャップが大

Q: 以下のスキルセットのうち、3年後にAI対応の職場で最も必要とされるスキルはどれですか?  
 日本(BDM)n = 150  
 日本(従業員)n = 152

# 促進要因: 企業は従業員への投資を指向 阻害要因: 具体的プラン

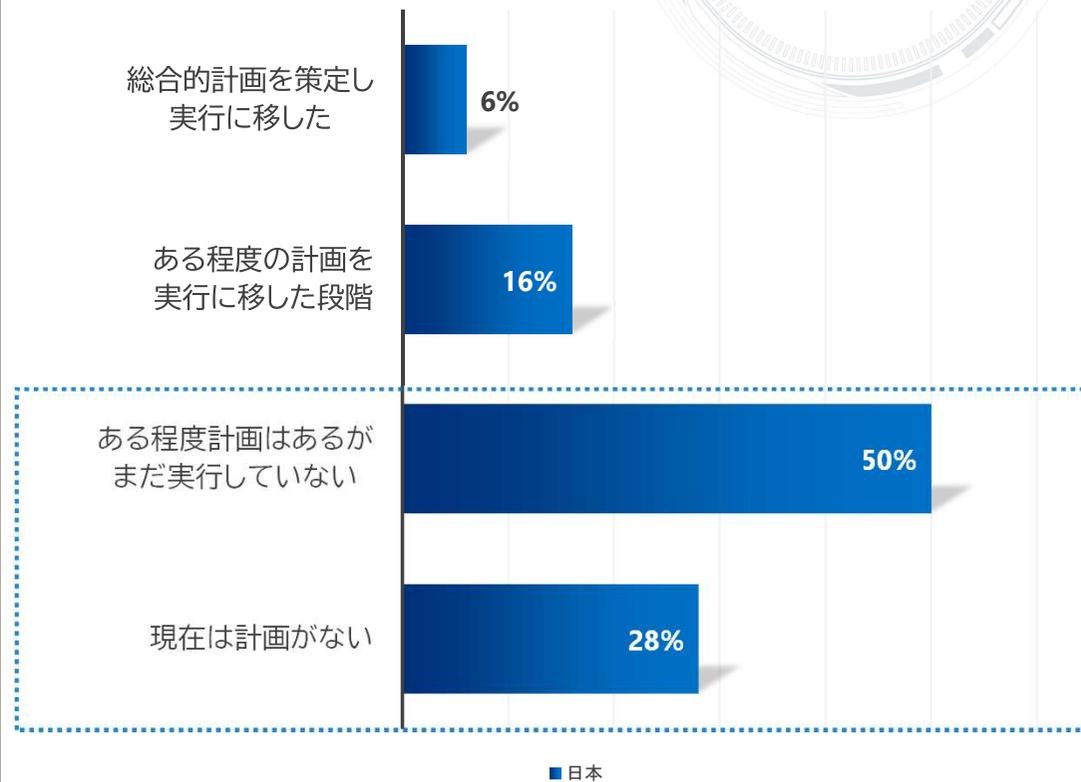


## 投資の注力点



Q: あなたの会社ではどの分野にAI投資を注力する可能性がありますか?  
日本(BDM)n = 150

## AI-レディな従業員育成計画の段階



Q: あなたの会社では、従業員がAI関連のスキルを習得するために、どのように対策を講じていますか？

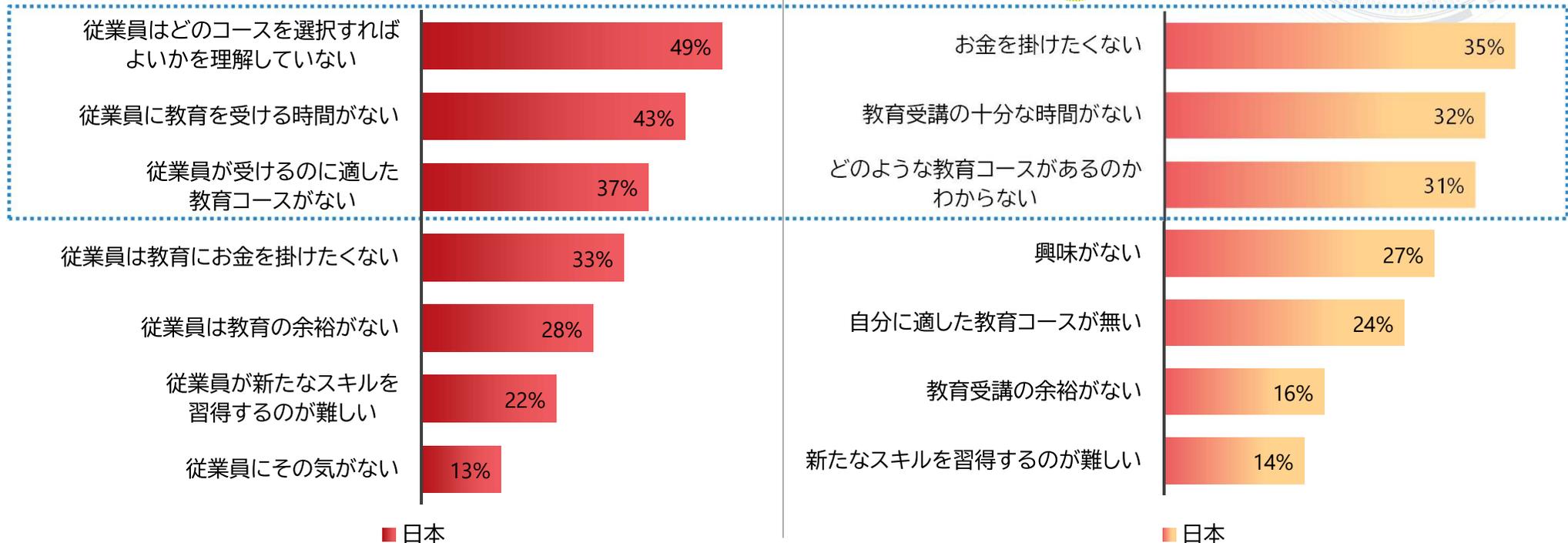
# 再教育、スキル向上の課題： 理解と時間の不足



## ビジネス



## 従業員

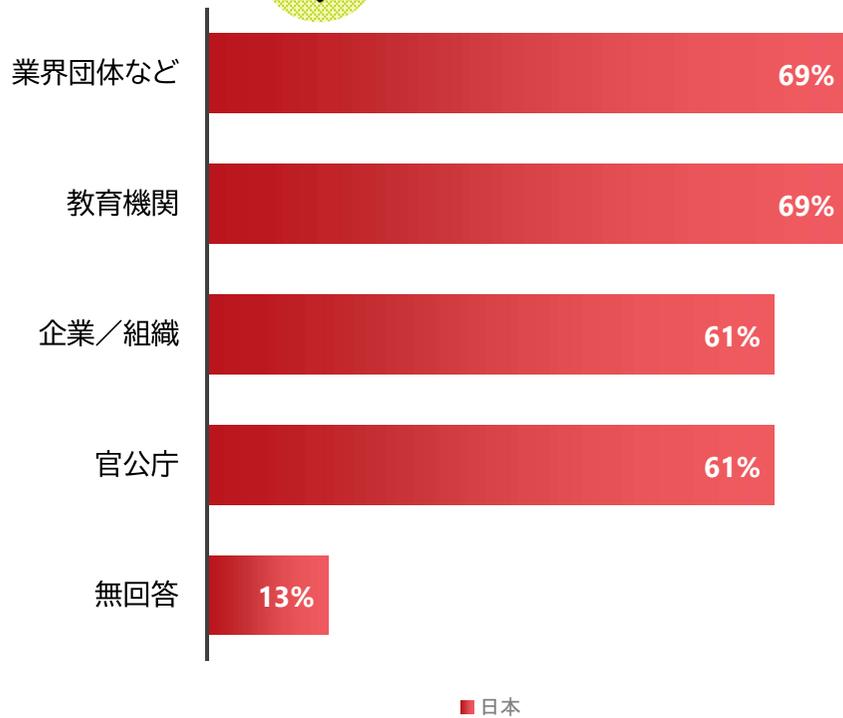


Q (ビジネス): AI対応の職場に必要なスキルを開発または習得する上で、従業員が直面する課題は何ですか？  
 Q (従業員): AI対応に必要なスキルセットを開発または習得する際に直面する課題は何ですか？  
 日本(BDM) n = 150  
 日本(従業員)n = 152

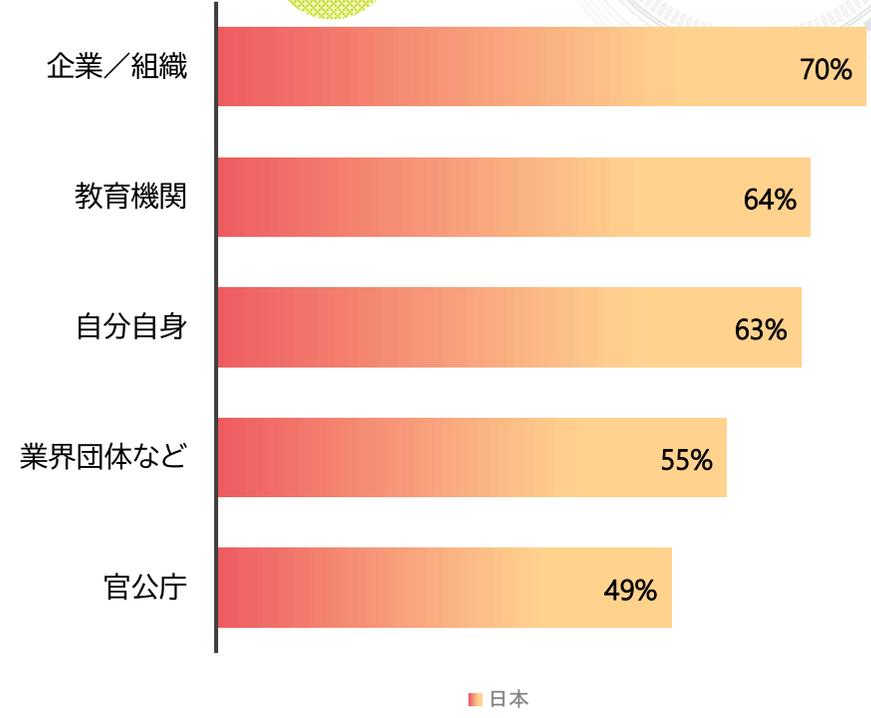
# ビジネスリーダーと従業員は再教育の責任について異なる意識を持っている



BDM



従業員





Tech intensity =  
(Tech adoption)<sup>^</sup> Tech capability



**1.** 生産的な方法でテクノロジーを活用できる従業員の訓練



**2.** 技術力を高める環境の創造



**3.** ツールを最大限に活用するための  
広範囲にアクセス可能な接続性

